

令和3年度 学校評価（星城高等学校）

建学の精神	彼我一体：報謝の至誠 文化の創造 世界観の確立			
教育目標	“感謝のできる”実践力に富んだ逞しい人間の育成			
学校経営方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神の具現化を目指し、「感謝のできる”実践力に富んだ逞しい人間の育成」に取り組む。その中で「礼節」「進学」「スポーツ」「国際交流」「英語」に重点を置き確実に進展させる。</li> <li>・令和4年度から始まる新制度の基礎固めの年度とする。</li> <li>・新設する明德コースの詳細を完成させ、学校全体で取り組む。</li> <li>・大学推薦基準、成績評価基準を統一し整備を行う。</li> <li>・県内の全中学校・中学3年生に対し、明德コースに関する広報の充実、周知の徹底を図る。</li> <li>・確実に令和4年度新入生500名を確保する。</li> </ul>			
重点目標	<p>I 礼 節：教職員が率先して行動することで、生徒の「礼節・感謝」の徹底を図る。</p> <p>II 進 学：進路指導を充実し、昨年度を上回る進路実績を目指す。</p> <p>III スポーツ：全国大会出場生徒数100名を目指す。</p> <p>IV 国際交流：新たな交流国を探すと共に現交流国と親交を深める。</p> <p>V 英 語：各コースにおいて検定等の目標を明確にして、英語の星城を一步すすめる。</p> <p>VI 明德コースの詳細確定と実施に向けての条件整備や広報の徹底を行う。</p>			
重点目標	評価項目	担当	具体的方策《数値目標》	実施状況 (◎実施したこと *今後の改善点)
I	規則正しい生活習慣	仰星コース 第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学期1回以上クラス担任による面談を実施する。面談を通して、日々の生活習慣に係る指導を行ない規則正しい生活習慣を身につけさせる。</li> <li>○清掃の指導を徹底する。ST後の清掃活動を全員で行い、日々の清掃活動を充実させることで集団生活における基本的な姿勢を身につけさせる。</li> <li>《年間出席率98%以上》</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎各学期1回ずつ、クラス担任による面談を行った。また、学年全員によるST後の清掃活動を実施した。</li> <li>*2学期までの出席率は98.0%（出席停止はカウントしない）であった。概ね良好であったが、今後は、特に欠席が多い生徒に対して声かけを行うことで、出席率を高めたい。</li> </ul>
I	祈明日講読	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「建学の精神」の具現化をすすめるため、LHRで年2回「祈明日講読」を実施し、朝のSTで「誓いの言葉」唱和を徹底する。</li> <li>○教職員からの率先した挨拶の励行と、感謝の言葉を口にすることを実践する。</li> <li>《朝のSTで「誓いの言葉」唱和を全クラス毎日実施する》</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎「祈明日講読」を実施した。各担任ごとに内容に沿って授業計画をし、生徒の書いた文章からも充実した時間になったと判断できた。</li> <li>◎朝のSTでの「誓いの言葉」100%実施した。</li> <li>*来年度も「誓いの言葉」唱和を徹底したい。</li> </ul>
I	コンプライアンスの徹底 生徒主体の活動	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年集会（学年主任講話等）を通して、学校のルールや社会的規範を守り行動することの大切さを理解させる。</li> <li>○星城高校の生徒として一人ひとりが自ら判断・行動できるような成長を促すために、級長の中から学年リーダー・サブリーダーを選出し、生徒により学年行事の運営や、集会時の整列指示・身だしなみ等の確認を行う。また、学年集会や式典での集合時間の徹底を行うことで、修学旅行での自主的な行動に結びつく力を養う。</li> <li>○級長・副級長会議を開催し、上記内容が円滑に進行するように話し合いを行なうとともに、助言・指導を実施する。</li> <li>《学年集会・式典において、リーダー・サブリーダーの指示で、12クラス中10クラス以上が、5分前に集合完了する》</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎学年集会をリモートにて各クラスに繋いで行い、社会規範を守るためにどのような人間に成長すべきかを伝え、振り返りも行った。振り返りの結果、社会規範を遵守するために求められる能力を理解していると判断できた。</li> <li>◎修学旅行の平和学習では、ディスカッションを通じ、一人一人が積極的に参加することができた。また、修学旅行のみならず、学年集会・式典においても集合・点呼を級長・副級長・班長を中心に決められた時間内に行うことができた。全クラス完了できている。</li> <li>◎朝・帰校STについて、中間報告同様、生徒中心に行うことができた。</li> <li>*来年度は、法改正により18歳成人を迎える初年度であり、社会規範遵守について継続的に生徒に伝え、理解をさせていく。</li> <li>*朝のSTを日直が行うことを継続し、各クラスのリーダー的存在を増やす活動、自主的な行動ができる生徒の育成に努める。</li> </ul>
I	礼節・感謝	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担任を中心に個人面談を年間4回以上（1・2学期に最低2回）実施し、他者への感謝や礼儀など、高校3年生として相応しい言動や考え方を身につけることができるよう指導する。</li> <li>《個人面談4回以上実施》</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎特に春から秋にかけては、ほぼ毎日のように個別面談を実施し、進路指導と合わせて周囲に対する感謝・礼儀などを指導した。</li> <li>*進路指導がメインの面談が多かったため、感謝や礼儀に関する面談を今後実施する。</li> </ul>
I	生活習慣の確立	仰星コース 生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導部・副担任による登校時の挨拶指導において、挨拶と共に服装の乱れがないかを生徒に確認させるように声かけをする。また、担任による個別面談を複数回実施し、生活習慣の確認や、抱えている悩みなどの早期把握に努め、安定した高校生活が送れるよう、アドバイスができる体制をとる。</li> <li>《年間出席率が98%以上》</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎挨拶指導の実施により、表情や声の様子などから生徒の様子がうかがえるようになり、担任と情報交換・共有する場面が増えた。この情報をもとに面談を行っていただくことで、個々が抱えている悩みに対し、早い段階で対応できた案件があった。</li> <li>*仰特が同じ校舎となり、今後協力して行うことができれば、対応する教員の人数を増え、多少であるが負担も軽減されるものと思われるため、対応する教員を検討したい。</li> </ul>
I	交通ルールの遵守とマナーの向上	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○愛知県警愛知署主催の「200日間自転車無事故・無違反ラリー」に参加すると共に、講話等を利用して交通ルール遵守を喚起していく。あわせて、このラリー期間中に、歩行通学者に対しても交通安全とマナーをチラシを配信するなどして喚起していく。</li> <li>○全国交通安全運動期間、本校自転車通学指導週間では、注意事項をClassi配信するなどして安全利用五則の徹底を図る。</li> <li>○各学期の始めに、生徒指導部から建学の精神に触れ、マナーを啓発していく。</li> <li>《自転車と車の接触事故 年間6件未満》</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎愛知県警愛知署製作の動画「交通安全の呼びかけと200日間自転車無事故無違反ラリー」を各クラスで投影し、全生徒へ交通安全とマナーを啓発した。</li> <li>◎10月より、県の条例が「自転車運転者のヘルメット着用努力義務」と改正された。それに伴い、交通安全やヘルメットの重要性のチラシを、自転車指導週間以外の日にも、生徒へClassi配信をした。</li> <li>◎1・2学期の始業式後の生徒指導部講話において、全生徒へ礼節感謝と登下校中のマナーについて指導することができた。</li> <li>*次年度より自転車指導週間に廃止し、本年度のように適宜交通安全とマナーについて指導を重ねていく。</li> </ul>

I	健全な心身の育成	生徒指導部	<p>○各学年で実施する教育相談講話の内容を充実させる。 第1学年では、性的少数者（LGBT）について深く理解させる。 第2学年では、異性との関係にどのように向き合えばよいかを理解し、興味本位ではない正しい性の知識と行動を身につけ、「いのち」について考えさせる。 第3学年では、人と人との関わりあいの中で、互いを大切にする気持ちと相手を尊重する心を考えさせる。 《各講話終了後のアンケート調査で、生徒の理解度が95%以上》</p>	<p>◎3学年とも仰星コースから普通コースまで教育相談講話を実施できた。また、アンケートを生徒全員が書き、その結果、担任と教育相談係で情報の共有ができた。 *3学年とも講話の内容は、生徒対象のみならず、職員対象でもあることを伝達したい。また、1年目教員研修などと結びつけることも視野に入れて取り組む。</p>
II	学習習慣の確立と基礎学力の養成	仰星コース 第1学年	<p>○朝学習は、学年で国語・数学・英語を週ごとに企画・準備し、学力バランスに配慮することで基礎学力を総合的に養成する。 ○各学期1回以上クラス担任が実施する面談において、日々の学習に係る取り組みや進路に係る指導を充実させ、学習意欲を向上させるとともに学習習慣の確立を図る。 《国・数・英それぞれにおいて、GTZ「A」以上の生徒が50%以上》</p>	<p>◎日々の朝学習（各日10分間）やクラス担任による、各学期1回ずつの面談は、予定通り実施した。 *GTZ「A」以上の生徒の割合は、国語が23.0%、数学が29.0%、英語が34.0%、総合が34.0%であったため、朝学や補習の教材において、基本的な内容に留まるものだけではなく、大学入試に対応した思考力を問う問題も扱いたい。</p>
II	ポートフォリオの活用	第1学年	<p>○GTZを指標として、2年次のコース選択指導を含めた学習指導・進路指導面談を年3回実施する。 《GTZ「D」ゾーン50%以下》 ○1人1検定資格取得を学年の目標として掲げ、各種検定試験に意欲的に取り組むように働きかける。 《50%の生徒が1人1検定受検》 ○ポートフォリオを活用した学びの履歴の積み上げと、GTZデータを次年度に引き継ぎ整備を行い継続的な進路指導を行う。</p>	<p>◎年3回の面談を実施した。 *事前学習動画など活用し次年度学年全体としての達成を目指す。 ◎各種検定については、「IV 1人1検定資格取得」欄に記載しています。 ◎ポートフォリオ・学びの履歴は、3月に実施予定。</p>
II	進路目標の明確化	仰星コース 第2学年	<p>○朝学の出組指導や担任による面談を通して、生活リズムや家庭学習等の助言を行い、学習意欲の向上を図る。 《第1回スタディーサポートと比較して、第2回スタディーサポート国・英・数のGTZを維持または向上した生徒が8割以上》</p>	<p>◎第2回スタディーサポート後に各クラスで面談を実施し、志望大学の受験科目の確認や具体的学習方法を指導した。 *苦手科目に対する対する個別指導をシステム化して、全体の力を底上げすることを検討する。</p>
II	普通コース「基礎学力の向上」 特進コース「大学進学意識を高める」	第2学年	<p>○朝の10分間学習を意欲的に取り組む指導を行うことで基礎学力の向上を図る。 ○スタディーサポートの事前シート・振り返りシートを活用し、生徒自らが学習習慣等を見なおすことでGTZの向上を図る。 ○スタディーサポート等のデータを基に面談を行い、3年次の進学・就職目標を達成できるように指導を行う。 《特進・アスGTZ A・Bゾーン50%以上を目指す。普通コースGTZ Dゾーン50%以下》</p>	<p>◎朝の10分間学習は、静かな状況で集中して取り組むことができていたため、基礎学力の向上につながったと考えられる。 ◎3学期の実力テストに向け、学習動画を配信して事前学習を促すとともに活用BOOKの学習活動をClassiで呼びかけた。また、事後学習動画も配信し、継続的な学習活動を呼びかけた。この取り組みによって、GTZの向上につながったと考えられる。 ◎目標値である9月3日実施の第2回スタディーサポートでは、特進・アス特A・Bゾーン68.3%、普通コースDゾーン54.1%であった。 *朝の10分間学習を継続し、基礎学力の向上に努める。目標値である特進・アスGTZ A・Bゾーン50.0%以上、普通コースGTZ Dゾーン50.0%以下を達成を目指し、事前動画、事後動画の視聴率を上げる呼びかけを行う。</p>
II	大学進学実績の向上	仰星コース 第3学年	<p>○面談を通して、各生徒の志望校の情報を把握し、進路目標を明確化する。 ○一人でも多くの生徒が国公立大学に出願できるようにするため、授業・補習・朝学において補助教材を利用した問題演習を行い、大学入学共通テストに対応できる学力の定着を図る。 ○生徒の成績・志望校を全教員で共有し、より効果的な進路指導・学習指導を行う。 《国公立大学合格者15名以上(旧帝大2名を含む)》（在籍54名）</p>	<p>◎5月に実施した生徒との二者面談、7月の保護者会を通して、その時点での志望校を4～5校あげた。ほとんどの生徒が第一希望校には学力が不足しているため、夏休み中の学習は中身の伴った計画を立てるよう指導を行った。 ◎授業・補習・朝学以外でも入試問題プリントを配布して演習を行い、学力の定着を図った。 ◎学力向上検討委員会、学年会で各生徒の志望校情報を共有し、学力に合う進学先の検討を行った。 *今後は、より学力を高めるための方策を検討する。</p>
II	進路獲得の実現	第3学年	<p>○特進・アス：小論文講座や進学講座などを通じ、総合型選抜・学校推薦型選抜を中心に進路に向けての活動をサポートする。 《年内にすべての生徒が1つ以上進路先を獲得する。（一般入試を除く）》 《国公立大学合格者10名以上》 ○普通・理・文：ワンランク上の大学への挑戦と進路獲得を目指した指導をする。 具体的な指導は、 ①個人面談による朝の個別学習指導 ②コース全体として英語検定受検を推奨するなどの英語学 力向上指導 ③受験期の個別添削指導の徹底を実施する。 《進学希望者GTZのDゾーン50%未満》</p>	<p>◎本館・2号館ともに総合型選抜・学校推薦型選抜による進路獲得を実現させるよう学習・進路指導を続けた。2号館では個別面談・個別指導を継続できた。 *英語検定受検の推奨など、英語力向上のためのアプローチが実施できなかったため、学年団で方法を検討して、計画的に指導できる体制を整える。 *進学希望者のGTZは、指定校推薦を最後まで目指していた生徒が、「D」ゾーンを脱却できた。しかし、そうではない生徒は脱却できなかった。よって、今後は進路目標を早い時期に明確にして、その目標に向けて学習する気持ちを切らさない指導を進めていく。</p>
II	「主体的・対話的で深い学び」の授業改善	仰星コース 学習指導部	<p>○「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業を増やすために、主要教科で他の教員の授業を見学する授業研修を実施して授業改善を進める。 《5教科で、各教科2回以上授業見学を実施し、授業改善に役立てる》</p>	<p>◎年2回の研究授業旬間に相互授業見学を実施した。前期は5月24日から6月7日、後期は10月18日から12月3日に実施し、各教科会において反省会をして教科内で意見等を共有した。 *来年度もできる範囲で実施したい。</p>
II	長期休暇を利用した学力伸長	仰星コース 学習指導部	<p>○長期休業中の学習計画を立てさせ、担任が点検し、助言・修正することでより高い学力の伸長を図る。 《自分の長期休業中の学習計画に取り組むことができた生徒が80%以上》</p>	<p>◎長期休暇中の課題を一覧にして生徒に配布し、担任に依頼してLHR時に学習計画を立てる指導を行った。 *計画的な取り組みが十分でない生徒が1年生に多かったため、担任の点検を徹底する。</p>

II	学習習慣の確立	学習指導部	<p>○進学に必要な基礎学力を定着させるために、家庭での学習時間確保を促す。</p> <p>①講話や学習・進路だよりで生徒に直接家庭学習の重要性を発信する。</p> <p>②教科主任会等で教員に家庭学習時間の情報を伝え、授業担当者・担任等から生徒に対し、家庭での学習が継続するよう促す。</p> <p>《学習（・進路）だよりを学期に2回以上発信する》</p> <p>《スタディーサポートにおける学習時間調査の結果において、平日の学習時間「ほとんどしない」が40%以下》</p>	<p>○学習だよりで家庭での学習時間の大切さを伝えた。また、1年生はコース選択説明会で生徒、保護者に対して学習時間確保の重要性を伝えた。</p> <p>○第2回スタディーサポート実施前や実力診断テスト実施前に、事前学習動画を配信し、受験対策を行った。</p> <p>○第2回スタディーサポート実施後や実力診断テスト実施後に、事後学習動画を配信し、テスト内容の復習対策を行った。</p> <p>○学習だよりを1・2学期は、2回配信する事ができた。</p> <p>【参考】第1回、第2回のスタディーサポートの結果（「ほとんど学習をしない」の割合）は</p> <p>特進・アステコース：1年生13.5%→24.5% 2年生31.8%→22.8%</p> <p>普通(理・文)コース：1年生16.8%→47.7% 2年生52.4%→53.3% となっている。</p> <p>*事前事後動画の配信を行ったが、視聴生徒数が少ない状態であったので、視聴方法などを検討して、生徒が学習動画に対して積極的に取り組むようし、視聴生徒数を増加させたい。</p> <p>*学習だよりで、ベネッセのデータなどを活用し、時期毎の行うべき学習内容、学習量を生徒に示し、学習習慣の改善を促したい。</p>
II	進路目標実現のための学力向上	学習指導部	<p>○進学に必要な学力を身につけるための学習を促す。</p> <p>①学年会等で担任に実力テストの結果を提示し、面談等で活用して事前事後学習の指導を進める。</p> <p>②ベネッセの担当者を招いて学習状況の分析会を開き、学力向上についての方策を得る。</p> <p>③授業中心の学習の大切さを学習・進路だよりなどを通じて生徒に伝える。</p> <p>《スタディーサポートにおける3教科の「D」ゾーン生徒数が全体の50%以下》</p>	<p>○学年主任、学級担任の協力の元、第2回スタディーサポート実施前、実力診断テスト実施前に、事前学習動画を配信し、受験対策を行った。</p> <p>○学習指導部の実力テスト分析係が、スタディーサポートの国数英、実力診断テストの国数英の学習ポイントをまとめた資料を作成し、生徒へ配信した。</p> <p>○新任の先生に対して、ベネッセの担当者を招き、勉強会を実施した。現状の分析、今後の改善点のポイントを聞くことができた。</p> <p>【参考】第1回、第2回のスタディーサポートの結果（Dゾーンの割合）は、</p> <p>学年全体：1年生46.5%→35.1% 2年生：38.0%→38.0%</p> <p>普通コース：1年生63.2%→47.4% 2年生：55.7%→54.1% となっている。</p> <p>*ベネッセの情報量、内容は、かなりのものがあるが、それを十分に生かし切れていない。今回は新任の先生に対して、勉強会を実施したが、来年度は、学年毎などで勉強会を実施し、各学年の核となる情報得て、授業や面談等で活用するなど学力向上の方法を実践したい。</p>
II	学習習慣の定着と進路目標の早期設定・進学実績の向上	仰星コース進路指導部	<p>○1年生：学習習慣の定着と学習意欲の継続のため、スタディーサポート事前シート・活用BOOKを使用して到達目標を設定し、学習計画を立案させる。また、結果を基にした事後の振り返りシートを使用して、自己の学力状況を把握させ、次回に繋げる。</p> <p>《担任による生徒面談を年間4回以上実施する。GTZ：S→20% A→60% B→20%(1学年47名中)》</p> <p>○2年生：早い段階で各自の得意・不得意科目や学習時間・学習スタイルを把握・振り返らせ、入試を意識した計画を立案させる。</p> <p>《ベネッセ総合学力テスト(11月)において、国英数総合偏差値50以上が40名。(2学年74名中)》</p> <p>○3年生：学級担任による面談の回数・内容を充実させ、志望校合格に向けた「受験プラン」を早期に立てさせる。全員が共通テスト5教科型を受験し、国公立大学出願の可能性を広げる。</p> <p>《国公立大学合格者15名、難関私立大学合格者20名》</p>	<p>○1年生：スタディーサポートの結果をふまえ、担任による面談を生徒1人につき3~4回実施した。学習につまずきのある分野を把握させ、Classi学習動画やスタディサプリ動画などを活用して苦手分野克服に取り組ませた。</p> <p>【参考】1年生 第1回SSのGTZ</p> <p>S→6.5% A→42.5% B→42.5% C→2.0% D→6.5% (47名中)</p> <p>1年生 第2回SSのGTZ</p> <p>S→17.0% A→36.0% B→32.0% C→11.0% D→4.0% (47名中)</p> <p>1年：ベネッセ総合学力テスト11月成績 英総合偏差値50以上が25名 (47名中)</p> <p>○2年生：日々の学習計画作成と、各担任による学習計画へのチェックやコメント記入により、受験生としてやるべき事は早期に理解できているものと感じる。各教科の授業においても、入試問題や模試問題への取り組みがなされているため、生徒達の意識も向上している。</p> <p>【参考】2年：ベネッセ総合学力テスト11月成績 5教科総合偏差値50以上が34名 (72名中) 国英数総合偏差値50以上が35名 (72名中)</p> <p>○3年生：苦手分野の克服に苦勞している生徒が多かったため、教科担任による指導を多く行った。受験プランの立案も教員から指示する前に、個人的に作成していた生徒も見られた。共通テスト5教科受験については、理Ⅱクラスの生徒が3教科型で受験するなど、統一ができなかった。</p> <p>【参考】国公立大学一般選抜出願状況 (2月4日現在) 3年1組14名24校・2組14名27校出願</p> <p>*生徒と接する時間を思うようにとることができなかった。今後は、効率の良い指導方法を検討したい。</p>

II		特進・アスリート特進コース進路指導部	<p>○特進コースにおいては、特進代表者会議において進路検討会を適宜開催し、生徒の受験の仕方についてコース内で情報を共有し、個々の能力に応じた進路指導をしながらよりよい進路へと導く。</p> <p>○1年生：朝学習を活用して検定受験に向けた取組を行うことで、学習習慣の定着と学習意欲の継続を図る。      ≪ベネッセ総合学力テスト11月英国数3教科総合偏差値50以上が30名以上≫</p> <p>○2年生：早い段階で各自の得意・不得意科目や学習時間・学習スタイルを把握・振り返らせ、入試を意識した計画を立案させる。      ≪ベネッセ総合学力テスト11月において、英国数、英国社、英数理いずれかの3教科総合偏差値50以上が30名以上≫</p> <p>○3年生：学級担任による個人面談の回数・内容を充実させ、志望校合格に向けた「受験プラン」を早期に立てさせる。全員が共通テスト5教科型を受験し、将来的に国公立大学合格30名達成のための礎として国公立大学出願延べ50名をめざす。      ≪3年生国公立大学出願延べ50名、国公立大学合格者10名、難関私立大学合格者10名≫</p>	<p>○進路検討会を複数回実施し、志望校や学力に応じた受験の仕方を一人ひとり検討することができた。</p> <p>○1年生：朝学の取り組みによって特に英語検定に関して数多くの生徒が受験した。学習習慣が定着することで模試の成果もあがった。ベネッセ総合学力テスト11月英国数3教科総合偏差値50以上が44名であった。</p> <p>○2年生：個人面談を数多く実施し、学習計画立案指導とともに学習習慣の定着を図った。週末課題で学び直しに重点を置き、朝学と連動させることで習熟度を高めた。      ベネッセ総合学力テスト11月において、3教科偏差値50以上が英国数19名、また、英国社、英数理いずれかは48名であった。</p> <p>○3年生：度重なる進路検討会を実施する上で担任による個人面談は「受験プラン」指導を行うなど充実した内容となった。また、共通テストの5教科型受験は6年連続となった。      国立出願数36名、名古屋市立大学合格現在計1名      関大、南山、青学、立命、法政、学習院→現在計6名      *3年生において総合型、学校推薦型で地元人気私大に多数合格者が出た一方で一般入試に立ち向かう雰囲気作りに苦戦したため、特進コースの受験方針を議論し方向性を具体的に担任と共有する。</p>
II	進学実績の向上	進路指導部	<p>○各種検定に積極的に挑戦させる。      ≪英検合格：2級5名、準2級25名、3級25名≫ ≪漢検合格：2級5名、準2級25名、3級40名≫ ≪数検合格：2級5名、準2級20名、3級15名≫</p> <p>○ライティング講座Ⅰ期を5回、Ⅱ期を10回、Ⅲ期を5回実施し、さらに夏休みを活用して開講数を増やす。内容を充実させリスニング・スピーキング指導を施す。特に、Ⅱ期では、スピーキングの個別指導を企画する。      ≪ライティング講座受講：3級25名、準2級25名≫</p> <p>○小論文講座では前期5回・夏休みの集中講座5回（3年生対象）、後期5回（2年生対象）と開講数を増やす。その他、志望理由書書き方講座（3年生対象）を5回に増やし出願前の完成を目指す。</p> <p>○1年生：ライティング講座の受講を促し、英検に挑戦させる。漢検、数検にも積極的に挑戦させる。進研総合学力テスト11月結果データをまとめることで保護者会の資料を作成し、コース選択の資料に活用して学習意欲向上に繋げる。      ≪英検受験200名、漢検受験300名、数検受験50名≫</p> <p>○2年生：進学補習や小論文講座、ライティング講座を積極的に受講させると共に各種検定にも挑戦させる。進研総合学力テスト11月結果データをまとめることで保護者会の資料を作成し、進路選択の資料に活用して学力向上に繋げる。      ≪英検受験200名、漢検受験200名、数検受験50名≫</p> <p>○3年生：6月の進研模試結果をもとに保護者会で目標設定をし、推薦基準となる9月の模試に向けた動機付けをしっかりとさせる。また、夏休み中の補習参加など促し、生徒全員の学力向上に繋げていく。小論文講座を充実させ、総合型選抜・学校推薦型選抜での進路獲得に繋げる。内部進学者増を目指し、進路相談会などを企画・実施する。      ≪内部進学者42名、一般選抜内部出願25名≫ ≪小論文講座受講：基礎80名＋実践20名≫ ≪指定校推薦獲得40名≫</p> <p>≪県内大学合格：愛知大学5名、中京大学20名、名城大学20名、愛知学院大学30名≫</p> <p>≪普通コース：大学・短大合格者延べ150名、中京大学5名、名城大学5名、愛知学院大学15名、名古屋学院大学10名、中部大学10名≫</p>	<p>○各種検定で2級、準2級の合格者は目標を上回る結果となった。      英検合格第2回まで：2級8名、準2級28名、3級37名      漢検合格第2回まで：2級7名、準2級25名、3級11名      数検合格第2回まで：2級5名、準2級21名、3級11名</p> <p>○各種講座の受講数は1・2年生ともに大幅に増加し活発な放課後学習が繰り広げられた。      ライティング講座受講：2級14名、準2級71名、3級56名</p> <p>○1年生：各種講座や検定に積極的に挑戦させることで学習習慣の定着を図った。11月模試データを有効活用し保護者会でコース選択の資料を提示することで生徒の目標を明確化させた。</p> <p>○2年生：11月模試の結果から生徒に目標を設定させて志望校を設定させるなど進路に対する動機付けをすると同時に学び直しを促し学力向上を図った。後期的小論文講座で多数の生徒が受講をした。      2年生小論文講座受講181名</p> <p>○3年生：6月共通テスト模試の結果から進路目標を設定し生徒一人ひとりに応じた進路を設定することができ、目標の合格者数を達成することができた。      3年生小論文講座：基礎28名、実践31名、      志望理由書56名→計115名      内部進学17名、一般選抜内部出願33名、指定校推薦76名      特進・普通両コース：愛大6名、中京大14名、名城大5名、      愛知学院大18名、名古屋学院大14名、      中部大14名（一般入試結果待ち）</p> <p>普通コース：大学・短大合格者延べ151名      中京大学8名、名城大学2名、      愛知学院大学12名、名古屋学院大学14名、      中部大学12名</p> <p>*各検定で2級取得者が出始めている。また、資格取得に向けた講座の受講者も増加傾向である。今後は、講座の企画をより充実させることができるように吟味していく。</p> <p>*内部進学はリハビリテーション学部が好調であった反面、経営学部は昨年より大幅に減少した。今後は1・2年次に対し志望校を決定する前に早期の説明会を実施するとともに、好調なリハビリテーション学部の体験なども企画する。</p>
II	第一次就職内定率の向上	進路指導部	<p>○生徒の希望と企業の特性・業務内容などとのミスマッチを防ぐために、生徒との面談を十分に行い生徒の個性を把握する。</p> <p>○就職問題集を早めに購入させて授業後に学習させることで学力向上と就職試験対応を図る。</p> <p>○模擬面接の練習ばかりでなく普段の学校生活の中から言葉使いや挨拶などの励行を指導する。      ≪第一次就職内定率100%達成≫</p>	<p>○就職希望生徒全員への面談は実施出来なかったが、キャリアセンターを尋ねる生徒には複数回面談をおこなった。</p> <p>○就職問題集を就職希望者全員に購入させて（5月）、解答させながら出題の傾向を理解させた。</p> <p>○日頃の生活のなかに注意すべき言葉や言葉遣いなどを意識させて応用させた。      *担任と係の連携を図り、生徒本人や家庭の希望などを周知できるようにする。      *近年の就職試験の多様化に適応するために1冊の問題集だけでなく複数の問題集を解答させる必要性について検討する。      *面接ではなく日頃の教師との会話などを利用した言葉遣いや服装、学習について指導する。</p>
II	進路実績	SGL開発部	<p>○3年生に対して、これまでのSGL活動で学んだことや経験したことをまとめる指導に重点を置く。そして、まとめを利用して学校推薦型選抜や総合型選抜で出願し、国公立大学への合格を目指す。      ≪学校推薦型・総合型選抜での国公立大学合格者数 A：5人、B：3人、C：1人、D：0人≫</p>	<p>○3年生に対して、これまでの活動を振り返り文章にまとめる探究活動を実施した。また、これらを1冊のレポート集として製本し、生徒に配布する予定である。      *生徒の状況や進路希望に対して、担任と綿密に情報共有する時間の設定が必要である。そのことが、進路結果に大いに関係していくと感じている。</p>

III	強化部の入学生徒増加と人間性の向上指導	部活動支援	<p>○「スポーツの星城」の推進を図るために、広報部及び各顧問との連携を強化し、強化部の入学生徒増を目指す。</p> <p>○日々の部活動指導を通じて、「本校が求める強化クラブ・スポーツ奨学生のあるべき姿」を生徒自身に考えさせ、具現化を目指すと共に、人間性と技術面の両面での向上を図る。</p> <p>◀スポーツにて生徒110名確保▶</p>	<p>◎広報部と強化部顧問が連携して、募集関係の強化指定部顧問会議を実施(7月20日)し、入学生増を目指した各中学校や道場への生徒募集を行った。奨学生任命式や部活動顧問からの指導を通して、星城高校生の模範となるように促した。</p> <p>*部活動顧問が部活動指導・生徒募集に費やす時間を確保するために、安全面も踏まえ部活動顧問の人数を増やしたり、授業時間数減などの方策を考える。</p>
III	部活動運営の把握と管理	部活動支援	<p>◎各種大会日程や結果を教職員に向けて広報し、部活動の活躍を応援する体制作り努める。</p> <p>◎全国大会出場に向けての環境作りと支援を行う。</p> <p>◀応援する体制作りができた▶</p>	<p>◎各種大会日程や県総体・東海大会・全国総体の結果を作成し、各部の開会日程表や各種大会結果を作成した。総体結果や東海大会・全国大会出場クラブ及び結果を教職員にメールで配信し、生徒指導部が生徒向けに広報した。コロナウイルス感染拡大等により各大会は中止や無観客開催となった。</p> <p>◎全国総体出場クラブの豊明市長表敬訪問を実施した。(6月29日)</p> <p>*部活動支援の共有フォルダーに各部の各種大会結果を入れてもらうように部活動顧問に対してお願いしたが、機能させることができなかった。よって、今後は、各部活動顧問に入力してもらうことができるようにする方策を検討する。</p>
III	部活動ガイドラインに則った部活動運営	部活動支援	<p>◎各クラブの活動計画に基づいて部活動の現状を把握し、運営・管理を徹底する。</p> <p>◎「部活動指導ガイドライン」や「部活動に係る活動方針」に則った部活動の運営を徹底し、体罰等のない健全な部活動運営を行う。</p> <p>◎部活動施設の設備の点検など安全管理を徹底し、事故発生の防止に努める。</p> <p>◀部活動における不祥事ゼロ▶</p>	<p>◎各部活動施設の状況や要望等を聞き、まとめた資料を作成して、生徒の安全や事故防止の為、改善の要望を行った。</p> <p>◎部活動での体罰(野球部)が8月に発生した。</p> <p>*授業や部活動中に、各実施場所において重大事故が起こる前の修繕を依頼していく。</p>
IV	交流国と親交を深める	庶務・国際交流部	<p>◎現行のアメリカ、ブルガリア、オーストラリア、カナダ、(パラオ)の交流校および各協会と密に連絡を取り交流を深める。本年度も昨年度と同様にして、新型コロナウイルス感染症の影響で短期留学を実施することができない。よって、オンライン交流等を企画・実施するよう努める。</p> <p>◀R4年度の留学の計画が、上記5カ国で進んだ場合「A」、4カ国の場合「B」、3カ国未満の場合「C」▶</p>	<p>◎ブルガリアオンライン交流、パラオ柔道交流を行い、各交流国や交流校へnew year cardを郵送した。</p> <p>*新型コロナウイルス感染症が収束するのに合わせて短期留学を企画できるように準備を進める。</p>
IV	新たな交流国の開拓	庶務・国際交流部	<p>◎旅行者や国際交流協会などの協力を得ながら新たな交流国の開拓に努める。</p> <p>◀新たな交流国ができた場合「A」、新たな交流企画が実現できた場合「B」、現状維持の場合「C」▶</p>	<p>◎新型コロナウイルスの世界的な感染が収束せず、留学の件は進めることができなかった。</p> <p>*各国の感染状況や外国人の入国状況を注視し、可能な状況であれば迅速に対応する。</p>
IV	国際交流	SGL開発部	<p>◎総合的な探究の時間において、各国の開発支援の現状や未解決の課題についてグローバルな視点で学ぶ、海外とのオンラインツアーを企画する。SDGsに関連付けた学びを展開し、海外の現地住民との交流を深めるためにオンラインでの質疑応答や意見交換などを行う。</p> <p>◀オンラインツアーの実施回数 A:4回、B:2回、C:1回、D:0回▶</p>	<p>◎オンラインツアーでは、各国のリアルタイムな状況を伝えていただくなど、オンラインならではのやりとりを重視した学びを実現することができた。</p> <p>*世界的なコロナ禍において、計画した国でのオンラインツアーは実施できず代替国で行ったが、それぞれの国ならではの課題を学ぶことができたため、今後も計画した国にこだわらず、状況に応じて対応していきたい。</p>
V	1人1検定資格取得	第1学年	<p>◎1人1検定資格取得を学年の目標として掲げ、各種検定試験に意欲的に取り組むように働きかける。</p> <p>◀50%の生徒が1人1検定受検する▶</p> <p>◎ライティング講座を積極的に受講するように働きかけ、英語検定の受検の推進と3級取得を目指す。</p> <p>◀ライティング講座各学期受講者数50名▶</p>	<p>◎1人1資格を目指して受検のたびクラスで働きかけを行ったが、目標を達成することはできなかった。</p> <p>*学校生活への適応優先や、部活動が優先されたことが原因と思われるため、2年次では、各生徒に目標設定をさせ取り組ませる。</p> <p>◎ライティング講座は、各担任や外国語から積極的に受講するように働きかけることができた。</p> <p>*来年度も検定の重要性を伝えて、講座の受講を働きかけたい。</p>
V	英語学習の定着	仰星コース第2学年	<p>◎意欲的な朝学習への取り組みや、授業の予習・復習の積み重ねを指導することで、英語学習習慣の定着を図る。</p> <p>◀現在12%の英検2級以上保持者の数が、25%以上▶</p>	<p>◎日々の予習・復習の徹底のみならず、SGLの成果発表会に向けても英語でのスピーチに取り組んだ。</p> <p>*英語で双方向にやり取りする機会を多く持ち、日頃から語彙力強化に取り組む。</p>
V	英語の学力の向上	仰星コース第3学年	<p>◎大学入学共通テストで安定した成績を残すことができるようにするため、授業・朝学で問題プリントを配布して、継続した演習問題(リスニング含む)への取組を実施する。</p> <p>◀大学入学共通テスト120点以上30名、140点以上10名▶(在籍54名)</p>	<p>◎授業・朝学・補習にて問題プリントを配付、また希望する者にはワークブック上のプリントを配布して問題演習を実施した。それらの演習プリントを提出させて、添削・解説する指導を行った。</p> <p>*私大対策まで手が回らなかったため、その時間を確保する方策を検討したい。</p>
VI	明德コースの広報	広報部	<p>◎普通科・明德コースの広報は、全中学3年生向けに新コース誕生と特徴のチラシを作成し、4・6月に学校訪問などで配付することで浸透を図る。</p> <p>◀4月・6月に、県下418校の中学3年生全生徒にチラシを配付する▶</p> <p>◎普通科・明德コースの詳細な情報を重点校を対象にして、9月パンフレット、10月リーフレットに掲載し、配付すると共に内容を説明することでPRを図る。</p> <p>◀9月・10月は、重点校174校の中学3年生全生徒にパンフレット・リーフレットを配付する▶</p>	<p>◎普通科・明德コースのチラシ(約70,000)を4・6月に、県下全中学生に配付した。中学校訪問時は、校長・進路指導主事に対し、コース名変更・プログラム選択・アラカルト研修旅行などについて説明し、新コースの概要を周知した。</p> <p>*来年度は、明德コースの具体的な活動状況について、中学校に報告する機会を設ける。</p> <p>◎普通科・明德コースのリーフレット(約38,000)を10月に、重点校を中心に配付・説明を行った。</p> <p>*来年度は、明德コースの具体的な活動状況について、中学校に報告する機会を設ける。</p>

VI	明德コース 「総合的な 探究の 時間」 の開発	探究学習 研究委員会	<p>○8・9月からの広報活動に向けて、「総合的な探究の時間」の3年間の指導計画を制作し確定をする。また、次年度からの普通科・明德コースで実施する「総合的な探究の時間」2単位のスタートに向け、教職員への周知徹底と「探究学習」を研修する機会を設ける。          ≪職員会議等にて職員を対象とした「探究学習」研修を2回以上実施≫</p>	<p>◎令和4年度「総合的な探究の時間」の3年間指導計画制作を進めている。指導計画2年生の中に「修学旅行」を「研修旅行」と設定し、修学旅行委員会と連携して、「令和5年度アラカルト研修旅行」の大枠を立案し、旅行社のプレゼンテーションを実施した。          ◎4月から10月にかけて広報部と連携し、「明德コース」のチラシを3種類作成した。          ◎職員会議（2回）で明德コース「総合的な探究の時間」についての委員会報告を実施した。また、現職研修では、「探究と資質・能力でつくる総合学習カリキュラム」についてを実施し、教職員への周知を図った。          ◎2年生3学期「総合的な学習の時間（キャリア教育）」4回の授業を、委員会からの探究学習プログラム「社会に求められる力とは？（自己PR文を作ろう）」で実施し、担任の先生方に探究学習の実践体験（研修）を行った。          ＊作成した3年間指導計画のシミュレーションを何度も繰り返し、修正や改善を加えながら、進めていく。          ＊教員を対象にした「探究学習」の研修や体験の機会を増やしていく。</p>
----	-------------------------------------	---------------	--	---